

こんにちは 松坂みち子 です

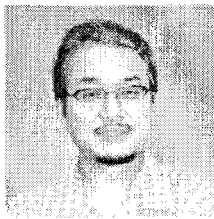


日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告

< No.40 2011. 7.31 > 連絡先 402-1622

原発ゼロへ いま言いたい やくみつるさん

7月25日付しんぶん赤旗日刊紙に、漫画家やくみつるさんの「共産党がリーダーシップを」という記事があります。その内容をご紹介します。



私も含め国民はいま、原発事故の人体への影響に恐怖を感じているわけですが、それ以上に、情報の出され方に恐怖心を抱いているのが実情です。せつつかれると、後から情報が出てきますが、出される情報のどれを信じたらいいのか、御用学者のデータじゃないか、フィルターがかかっていないか、疑心暗鬼で非常に戸惑っています。

ぶれない軸足で報道しているところをよりどころにしたい。日本共産党が東日本大震災以前から、福島原発が津波で全電源喪失に陥る危険を指摘していたことは知られているし、今度は“やらせ”メールを「赤旗」がすっぱ抜いた—これらの点で、今もっとも信頼できる存在となっています。

実は私も以前、原子力施設の広報の仕事をしたことがあるんです。「原子力は、火力や水力以上に人間がコントロールできるエネルギーだ」と説明されて納得していたんです。ところが今回、まったく人間がコントロールできない、手に負えないものだということがはっきりした。

原発を止めれば、電力不足になって企業が海外に出て行き、産業が空洞化するとか言われますが、それでももう原発は無理だと思う。次にどうなるかもわからない、安全性の担保がもはや何もないではないか。

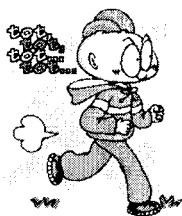
菅首相は「脱原発依存」と言いましたが、すぐに個人的見解だと言った。民主党であれ自民党であれ、原発問題でどうブレるかかわからない。国民が初めて経験する状況下では、確かなよりどころが必要となる。一貫している共産党が、原発から撤退し自然エネルギーに転換するという政策をリードし、世論をリードして、リーダーシップを発揮してほしいと、願っています。

みち子のひとりごと 恥ずかしながら

朝走っている時に、転んでしまいました。あつー!と思った瞬間、地面が身体のすぐ下にありました。胸と右腕に衝撃が走り、すぐには立てませんでした。しばらくすると右ひじが腫れてくるし、動かすと痛いし、もしかしてひびでも入っていたらたいへんと病院へ行きましたが、「骨は異常なしで、ほっとしました。」

それにしても、いつも通っていて、障害物があることもわかっているのに、どうしてこんなに派手にころんでしまったのか。注意力散漫、わかつているという慣れの気持ちがあつたのでしょうか。何事も、同じです。慣れの気持ち油断につながります。いつも気を引き締めていなくては。痛い思いをして改めて得た教訓でした。

P.S.「骨は大丈夫」というお医者さんの言葉に、心の中で「よっしゃ!鍛え方が違うもの!」とガッツポーズをしてみました。

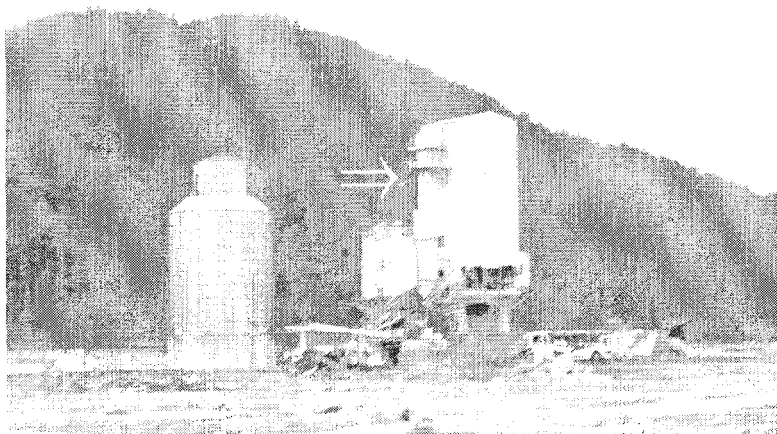


東日本大震災

写真から

生コンの施設。矢印のあたりまで津波が来て、ベランダのように出ているところまで登って避難した人は助かったそうです。

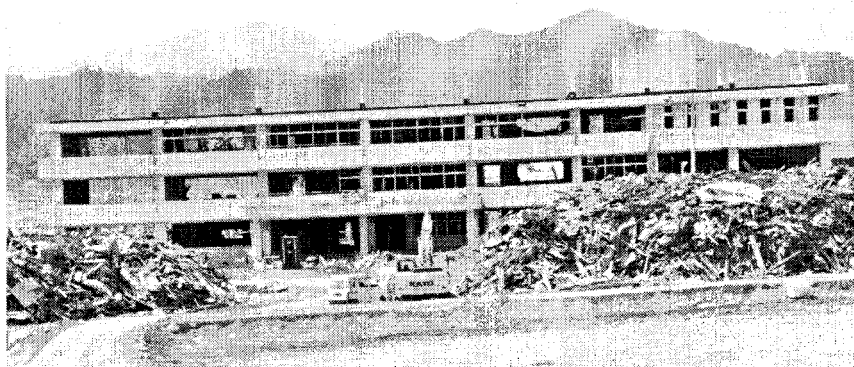
右下のところにあるのは車です。タイヤが見えています。大きさがわかるでしょうか。



海岸べりの川沿いに建っていた「気仙中学校」(写真左)は津波の被害をうけ、壊滅状態となっていました。

しかし、廃校になった市内の別の中学校の校舎を使って

授業を行い、グラウンドには仮設住宅がたっているため、別の場所へ移動して部活動を行っています。



和太鼓の音に誘われて入っていくと、中学生が懸命に練習していました。

気仙町に伝わる、ケンカ太鼓祭りの練習だとか。4つの組で競い合っていたが、今年は1組だけでもと、練習をしているらしい。子どもたちは幼稚園のころから練習を積み重ねてきているそうです。保存会の人々が指導し、地域の伝統文化を絶やさずまいとの意気込みが伝わってきました。

